

東堀の歴史・文化

東堀区誌からのメッセージ

縄文弥生（紀元前1万年～5百年）榎垣外遺跡は柴宮森を南限に長地保育園地籍を中心に発達した
 大化年間（645～650年）スクモ塚古墳（現中屋地区）がつくられる
 養老年間（717～724年）片間町地籍に集落が発達する
 延暦年間（782～806年）金山東（長地小北側）などの集落が栄える
 興元年間（1340年）宗良親王（後醍醐天皇第五皇子）東堀にご滞在ご通過と伝える
 天正8年（1590年）検地で村高804石、この時「東堀」の名が初めて公文書に現れる
 元和年間（1615年～）東堀の集落「古屋敷（現東部中付近）」から中山道沿線へ移転した

東堀村

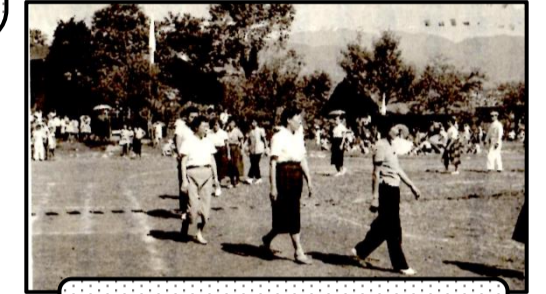
村の戸籍

「宗門御改帳」「東堀村人別帳」として現存する最初のもは寛文5年（1665年）である。キリシタン禁制により行われたが、江戸中期になると戸籍としての役割を果たすようになった。明治4年まで続き、同5年の「壬申戸籍」に引き継がれた。

村のしくみ

村は部落共同体あり、行政的にも生活的にも最も小さい単位であり、年貢・課役は村として上納した。水・飼料・草場・薪炭等の調達は全て村の仕事であり、個人は村の中での存在であり、活動も同様であった。部落共同体の中では、村の恩恵なしには生活できなかった。

昭和十六年頃の長地小学校の校庭。ほとんどの人は下駄スケートで滑った。



昭和24年 区民運動会始まる



第26回尚齒会(昭和29年)

第1回尚齒会は大正2年3月70歳以上41名が参加し柴宮館で開催された。その後2～3年に1度開いたが、昭和18年からは毎年桜満開の4月下旬となり、年々盛会となった。現在は5月下旬に行われている。

東山田村
西山田村
東堀村

長地村の誕生

明治7年筑摩県から3村の合併指令書が届き、長地村が誕生した。数百年も続いた東堀村は東堀耕地と呼ぶようになった。明治8年の人口は2417人・戸数510であった。



昭和34年頃の長地小学校・東部中学校（合併に伴い長地中学校は33年4月に改名）

長地村

東山田
東町
横川
中川
中屋
東堀

岡谷市との合併

長地村議会は昭和32年3月岡谷市との合併を決議した。下諏訪町への合併を主張した東山田・東町地区は住民投票の結果、33年7月下諏訪町へ分市編入した。

岡谷市

柴宮館



明治45年 柴宮館 新築

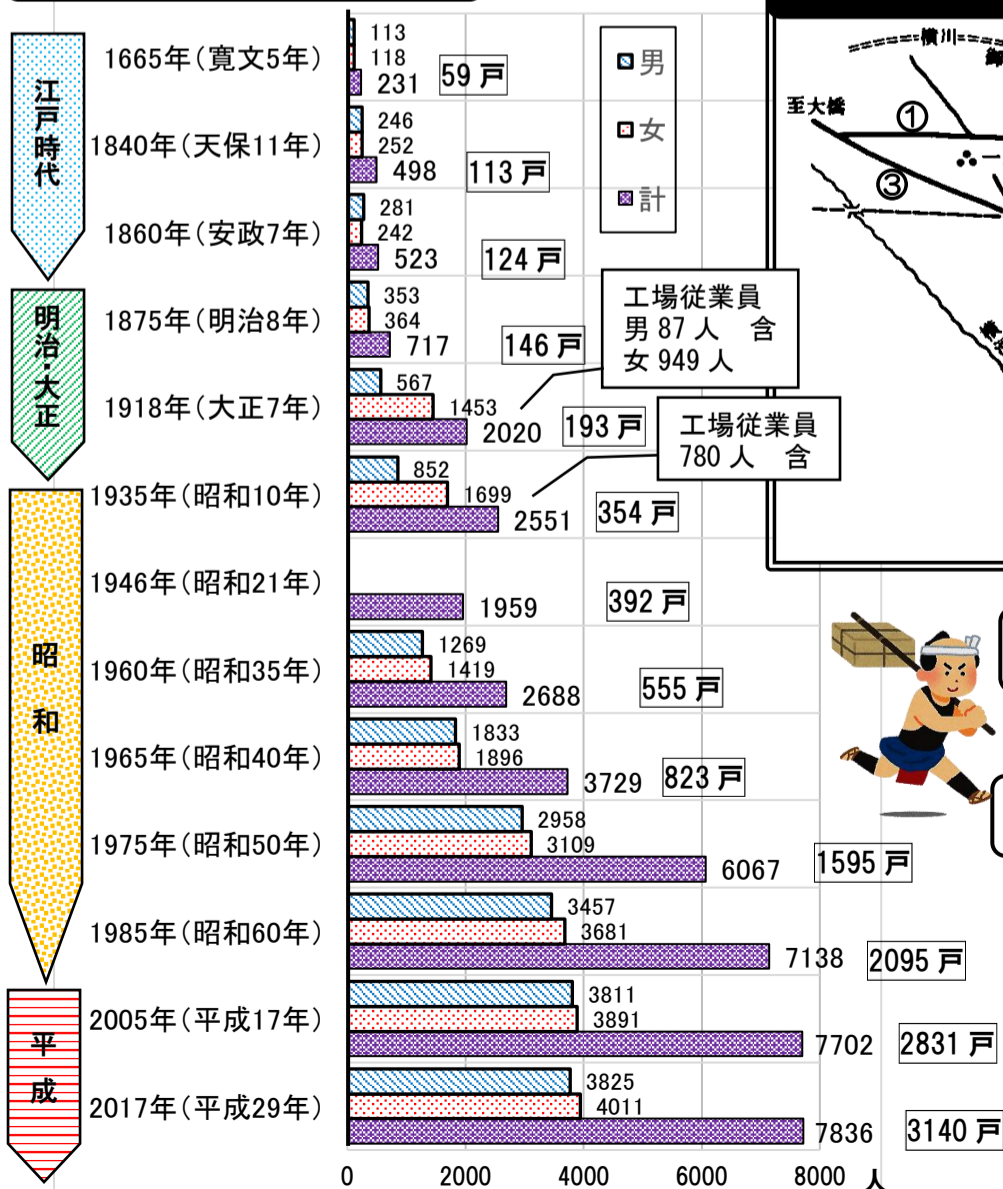


昭和22年 増改築

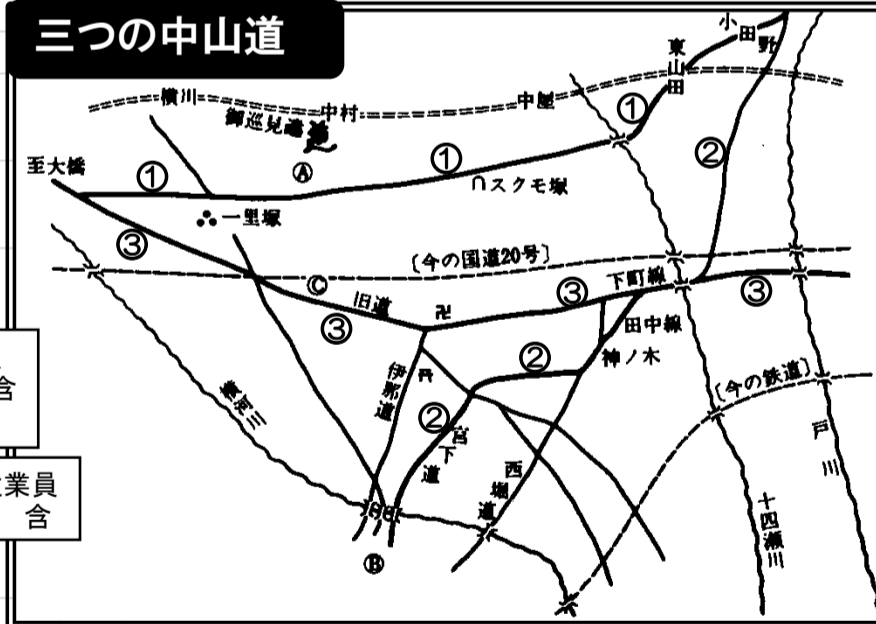


昭和55年 大改築

東堀の人口・戸数推移



三つの中山道



③中山道 中町より平福寺方面を撮影した昭和16年元旦の街昔の車が下ってくる

① 古中山道

一番古い中山道で、和田峠を越え落合の辺で砥川を渡り、小田野から東山田-中屋スクモ塚北側-小萩社の南-横川大橋を渡り、今井から塩尻峠に通じていた。この道筋がほぼ東堀村と両山田村との境になっていた。

② 初期の中山道

江戸を中心とした5街道の一つに指定された。和田峠から下諏訪宿-社東町-国道南で十四瀬川を渡り-神ノ木-西堀新道小口宅を右折-杉村設備前-東部中横-小井川-小口-岡谷-三沢-小野-木曾へ抜けた。

③ 中山道

1614年東堀から今井を経て、塩尻峠を越える道筋に変更された。社東町から国道南で十四瀬川を渡り、東堀いわゆる旧道を経て国道を横切り、自動車教習場北側を通り、今井-塩尻峠-塩尻-洗馬-木曾路へ入った。

新道(国道20号)東堀部分は明治20年開削される